

宗像市市民参画等推進審議会会議録（要旨）

日 時	平成28年5月27日（金） 8：45～18：00
場 所	メイトム宗像 101会議室
委 員	*■出席 □欠席（五十音順、敬称略） ■ 井上豊久 ■ 木村健次 □ 志岐宏美 ■ 中里留美子 ■ 東博子 ■ 松永年生 ■ 南 博 ■ 毛利拓也 ■ 山下恵美子 ■ 吉田晴希
事務局	コミュニティ協働推進課；中野、中脇、神 元気な島づくり課；末信、武丸 むなかた市民フォーラム；雪松、立花、入江

1. はじめに

- ①審査の進め方について確認
- ②新規申請事業について、事務局の事前確認等の報告、参考資料の配布

2. 個別審査

（●審査員、⇒ 申請団体、◇市関連部署）

① ノルディックウォーキングを広める会 「ノルディックウォーキングを広める会」 市関連部署；文化スポーツ課、健康課、高齢者支援課

団体から、提案内容について説明

●予算書の収入で参加費を 35,000 円として計上されていますが、支出のどの部分に充てられるのでしょうか。

⇒公認指導員養成講座の受講を予定しており、受講にかかる費用が 45,000 円かかる。その一部に充てる予定です。

●15名の参加を見込まれているが、参加者の見通しはどうか。

⇒今から募集しますが、集まると思います。

●現在、団体のメンバーの中に公認指導員はいますか。

⇒1人います。

●会費を 500 円とって行う講座を年に 15 回予定されており数が多いようにも感じますが大丈夫ですか。

⇒大丈夫です。最低でも毎月 1 回は行う予定です。

●それに付随する会場費が予算書に上がっていないようですが。

⇒会場は、グローバルアリーナなど費用のかからないところを予定しています。

●大会はどういった内容で行う予定ですか。

◇計画にあるノルディックウォーキング大会は、市のスポーツ推進計画の基本施策の 1 つに

スポーツ・運動を通じた市民健康活動の推進というものがあり、その中でノルディックウォーキングも対象とした市民ウォーキング大会を開催するというものがあります。その計画に関連して大会を予定していただいています。

●ウォーキングの一環としてノルディックウォーキングもあるということによいですか。

◇はい。

●協力・連携団体として4団体あげられていますが、グローバルアリーナ以外の団体とはどのような連携を予定されているのですか。

⇒シニアクラブには高齢者を対象とした体験会への参加協力、通所介護ライズには体験会で体調を崩した人が出た場合の対応、エイコーには体験会での指導を行っていただく予定です。

●エイコーはどのような会社ですか。

⇒ユリックスのアクアドームの運営を受託しており、ノルディックウォークの指導ができる専門家がいます。

●今から公認指導員を育成し、宗像市の健康づくりのために活躍していただくのですが、参加対象は宗像市在住の方などと決めているのですか。

⇒宗像市在住者を優先したいと思います。

●公認指導員の募集要項の受講資格の1番上に18歳以上で心身ともに健康な方と書いてありますが、ここでいう心身ともに健康な方というのはどういうふうに定義されていますか。たとえば、「私はこういう内臓疾患があるのですが受けることができますか」という問い合わせがあった場合、どういう基準で判断して、了承するのか、断るのか、それを教えてください。

⇒だいたい10キロ歩けることというのが目安になります。しかし、場合によっては10キロ歩けない方でも、10キロ歩けない方への指導ができますので、そういう方にも受講資格を与えたいと思います。

●判断が難しいような場合に、受講希望者の尊厳を傷つけないかたちで対応することは可能とお考えでしょうか。

⇒はい、それは可能です。ノルディックウォーキング連盟の本部の方に問い合わせして、アドバイスをいただきながらやっていきたいと思います。

●公認指導員は宗像市内にどのくらいいらっしゃいますか。

⇒把握できておりません。数名おられるかもしれませんが、体験会などの機会を通じて把握していきたいと思っております。

●体験会を15回予定されていますが看護師さんの予算が入っていませんが大丈夫ですか。

⇒シニアクラブの会員に医療関係者がいるのでそちらへお願いするので大丈夫です。

② むなかた自炊塾 「むなかた自炊塾」

市関連部署；学校管理課、健康課

団体から、提案内容について説明

●九大の自炊塾を受講した学生の受講後の自炊状況などはどのようになっていますか。
⇒受講中、受講後にフェイスブックに実際に自炊したものなどをアップしてもらっています。通常、大学の授業は単位を取ったら終わりというものが多いのですが、フェイスブックでつながった状況にしておくとう受講後も反応がある率は高くなります。受講後も自炊を続けている学生はたくさんいます。

●ちょっと心配するのは、仮に今回の申請が採択されたとして、3年経過後に事業が継続するのかということです。予算の大半をこの補助金が占めているので。
⇒このプログラムに私が関わり続ける状態だとまずいと思います。私も宗像市民ですけども、できるだけこの取組みに賛同した人たちがさらに似たようなグループを作っていっているようなことをやってほしい。そういう意味で、そういう風なリーダーになりうる人を育てることも含めて考えています。例えば今季の塾生で参加した人たちには今度は自分たちが運営する側にまわってもらって塾生を育てていきながら、3年後には自分たちで自立してこういう機会を運営していくというようになればと思います。予算面については、例えば、60万必要だとして、20人の参加を想定すると1人あたりの負担が年間3万円。それで、宗像市の特産物を見学できて、しかもその食材を使う事ができるという機会を体験することは3万円でも高くないと思います。参加費3万円と書いて募集して成り立たせることを最終目標にしています。

●参加対象に子育て中の親が入っていますが何か意図がありますか。
⇒お母さんたちには、自分自身の調理経験が少ないかたがすごく増えています。買って済ませるかたも多いと思いますが、できればどこかで習いたいと思っている人がたくさんいらっしゃいます。そういう人たちへの良い機会になればと考えています。

●定員20名であれば、あふれるのではないですか。
⇒あまり積極的に募集をかけないようにしています。というのが、たくさん来られると、事業として成立しなくなる可能性があるのです。できるだけ20名くらいにおさえたいと思います。調理を教える側にとって、やっぱり20人くらいが限度で、それ以上になると教えても効果が出にくいとみなさん言われますので、やはり20人くらいが適当かなと思っています。

●自分で料理を作るという事は非常にいいことですが、和食を食べる、朝食を食べるとかそういうことも、非常に健康に重要だと思うのですがいかがですか。
⇒例えば朝食を取らない学生が九大の場合、約4割です。なぜ取らないかという一つは経済的な理由があるのですが、1日に使える食費が700円以下なので、買って済ませる食べ方だと2食で済ませないといけないということになります。でも、自分で作れる人は実は700円で3食取ることができるわけです。ですので、自分で作る力を身につければ、朝食も取れるようになる可能性は非常に高いと考えています。

3、Grand Jour 「育児育自の会「Grand Jour」

市関連部署；子ども家庭課

団体から、提案内容について説明。

●昨年7回ほどイベントを実施されて、今年度は、3倍の21回を予定されています。回数の増加理由とスタッフの役割分担についておしえてください。

⇒まず最初の質問の、回数が増えたことについてですが、5月1日にオープンした、私が経営しているカフェの一角にグラジュールのためのお部屋というのを別に作りました。事前に審査会からいただいたご質問に「カフェとそのスペースをどうすみ分けるのか」というものがありましたが、グラジュールはグラジュールで会計処理をしており、別団体として考えております。カフェの部分とは別に部屋を一つとっておりまして、そこに拠点ができましたので、今まではコミセンであるとか、いろんな場所をお借りしての活動をしていたのですが、拠点ができたので月に1回もしくは2回程度の開催をしていこうと思っております。それで2か月に1回程度開催だったのが、月に1～2回の開催になったので数が3倍になっております。もう一つご質問があったスタッフの仕事の分担なのですが、特にあなたが会報の担当ですとか、あなたがカレンダーの担当ですとかいうようにしておりません。みんなでこんなご依頼があったよとか、こんな人に頼めるよとかいう話をさせてもらってみんなで決めていくというかたちになっております。

●お子さん連れの方がけっこういらっしゃると思います。託児はどうされますか。

⇒託児は、株式会社アズママの仕組みを利用させていただいています。アズママは頼り合いの子育てというのをモットーにした会社です。スマートフォン等で子育て支援の託児依頼を出していただいて、私たちが託児をお受けすると承認すると託児依頼受付が完了します

●託児の場所は。

⇒カフェのキッズコーナーを広く取っておりますので、そちらの方で受け付けるかたちになります。

●事前にお伺いするべきだったのですが、様式1号で申請額を145,000円ということで出させていただいていますが、様式4号の補助金の計算のところでは198,000円となっています。細かなことはともかくとして、団体さんとしては申請額145,000円という事でよろしいですか。

⇒はい、145,000円をお願いします。

●実績が7回で62名となっています。今回、採択となった場合、市政だよりなどで広報関係が充実してくると参加者がさらに増えることが予想されます。そうした場合、部屋の数量的に問題はありませんか。

⇒広めの8畳のお部屋をご用意しています。座ってお話いただければ9名～12名くらいは入るお部屋になっていますのでそれくらい的人数で行うことを想定しています。

●9名～12名ですと、ちょっと部屋が狭くないでしょうか。

⇒部屋が狭くなった場合は、近くに池野コミュニティセンターもありますので、どうしても入らない場合はそちらの方にご相談させていただくようなかたちになるかと思えます。

●会費についてですが、このグランジュールさんのいろいろなイベントに参加する人は必ず会員になっていただくという事で年会費を支払うようになるのですか。

⇒年会費を支払っていただいた人には、いろいろな特典があります。託児が少し安くなったり、隣のカフェでのお食事やコーヒーの値段が割引になったりですね。他にもちょこちょこいろいろな特典が付きます。ただ、会員にならずに単発で参加することもできます。グランジュール企画の講座は、通常600円で、それが会員になると300円で受講できますのでそういうところもお得なところになります。長く参加される人は会員になった方が特典が大きくなる仕組みになっております。

4、宗像フェス実行委員会 「子供たちの思いを被災地へ～熊本震災支援イベント～」 市関連部署；子ども育成課

団体から、提案内容について説明。

●対象とする子どもの年齢はどのくらいを考えていますか。

⇒小学校5～6年生を考えています。

●5～6年生に限定して募集をするということですか。

⇒そういうわけではないですけど、高学年というかたちで募集する予定です。

●中学生もいいのですか。

⇒いえ、小学生を考えています。

●子どもの活動で、7月に制作を1日で行うと言われましたが、計画の中には子どもたちがアーティストと共同事業を行うと書いてあります。子供たちは7月の制作以外でアーティストの方とどういうふうに関わるのですか。

⇒アーティストとの交流はフェスの当日のみになります。リハーサルも含めて、アーティストのスケジュールも確定しておりませんので、本当に顔を突き合わせてというのは、当日のみになると思います。

●計画に震災について学ぶということがありますが、どういう人を講師に呼ぶ予定ですか。

⇒竹灯籠の制作を監修していただく熊本の池田さんを予定しています。熊本で被災した人なので、いろいろとお話しいただけるとと思います。

●灯籠を販売されるようですが、だいたいいくらくらいを予定していますか。

⇒500円で2000本、100万円分を販売できたらいいなと考えています。

●子供たちの灯籠制作の指導は誰が行いますか。

⇒指導は池田さんとスタッフで行います。

●池田さんには事前に来てもらえるのですか。

⇒はい、事前に来て子どもたちと制作してもらいます。

●宗像フェス実行委員会と熊本の震災との結びつきがよくわからないのですが、趣旨はいろいろ書いてあるからわかるのですが、市の補助金は最高で3年間になりますが、10年先も20年先もこの実行委員会が続く限り、熊本の震災と結び付けていくというお考えですか。

今回熊本で震災が起こって大変な時期なので、それにからめたという印象も受けるのですが、⇒東日本大震災の際にも支援に行って、その後、義援金を送ったこともあるのですが、風化

させたくないという思いと、せつかく九州で大きなイベントをやるので社会性をもたせてやりたいという思いがあります。宗像は、いろんな意味で心優しい地域だと思っておりまして、ぜひ九州の中でこういった大きな震災があったなかでは、ぜひ支援していきたいなというところもありますので、もし来年、仮に大雨で大変な状況が生じたときにはそれに振り替えたいなと思っています。

●今回のご提案のメインの竹灯籠の制作の部分とそれとは別にルミカライトを販売してそれを義援金として送るということですが、この2つを連動させての申請について説明をお願いします。

⇒竹灯籠の光源は、皆さんに買っていただくルミカのライトになります。みんなの思いを込めて1つずつ竹灯籠にさしてもらってその光で竹灯籠を光らせようと思っています。会場のみんなの思いがかたちになるという演出にもっていきたいと考えています。

●市の方にも、別途質問するつもりですが、税金をもとに出された補助金、その補助金をもとに販売されたルミカライト。まあ今回補助対象経費のところにルミカライトも計上されているのですが、それが義援金にまわる。そのことについて何か疑問に思われることはありませんか。

⇒子どもたちに震災について伝えていくことが一番の趣旨になっているので、結果、お金の流れはそうなるかもしれないですが、補助金を活用する以上、子どもたちにしっかり伝えたいと思っていますので、実行委員会としては問題無いのではないかなと思っています。

●宗像フェスの開催趣旨の中に世界遺産とからめてという内容がありますが、今回の事業とはどのように関連があるのですか。

⇒宗像フェスのイベントの主な目的は世界遺産のPR。それとは別の事業として子どもたちの思いを被災地へ届けることを行いたいと考えています。今回申請しているのはあくまで子どもたちが主体となっていく事業です。せつくなので、子どもたちとアーティストが関わることができる時間を設けていきたいなと思いますし、立派なステージもありますので、できれば子どもたちの思い出として活用したい。音楽フェスとは別の事業だと思っていただきたいです。

●宗像フェスは、今後、どのくらい開催していかれるのですか。

⇒今のところは来年までの開催ということになるかと思います。行政からお金をいただいているわけでもありませんので、10年後もやるっていう事は言えませんし、やらないといけないということもないと思います。

●継続を想定している事業がこの補助金の対象になるのですが、そのことについてはどうお考えですか。

⇒青少年育成は10何年もやっていますので、子どもに関連する事業は継続して実施していくつもりです。

●確認ですが、予算に入っているチラシ・ポスター経費は子どもたちの灯籠作成関連のみのポスター・チラシの作成経費ですよね。

⇒当然です。

●子どもたちの思いを被災地へというものをしっかりテーマとして掲げられているのです

が、子どもたちの竹灯籠制作との関わりや子どもたちが登場するシーンをもっと工夫したほうがいいと思います。竹の切り出しなどにも関わっていただいたらどうですか。

⇒物理的に可能なことはやりたいと考えています。税金を使ってこの事業をやるので、せめて子どもたちの思いを被災地へというテーマに関するをもっと前面に出す必要があるのかなという感覚は私にもあります。

～ 休 憩 ～

5、ママフェス実行委員会 「ママフェス in 宗像」

市関連部署;子ども育成課

団体から、提案内容について説明。

●いろいろな人たちが子育て中のお母さんたちのために何かを行うということで良いことだと思えます。実際、このママフェスを実施するにあたって、現在、子育てをしている世代のお母さんたちにアンケート調査などを実施したうえで、こういうことを考えられたのですか。

⇒ママ友やそのまた知り合いなどを通じて、「子どもが小さい頃、公共の場に行く勇気がなかった、一人で育児が大変だった」という話を聞いていました。アンケートは実施していません。

●実行委員会はどのような役割を担いますか。また、お母さんたちの出番がどういうところにあるのかをお聞きしたいです。

⇒まだ手探りのところがありますので、役割は決まっていません。まずは骨格を実行委員会のなかで作上げていくということになると思います。

●ステージ費用に45万円計上されていますが、どのようなステージを準備する予定ですか。

⇒来場者にしっかりとメッセージが伝わるように演出を考えないといけません。そのためには、きちんとしたステージを設営して音響や照明もセットする必要があります。

●予算の中に興業中止保険というのがありますが、人づくりでまちづくり事業が興行になることは考えにくいのですが。

⇒保険の名称は興業中止保険になっていますが、悪天候で、イベントが中止となった場合のキャンセル費用のための保険になります。

●「ママたちによるママのためのフェス」となっていますが、子どもまつりの場合は自分たちで企画して自分たちでお店を出しています。この事業においてお母さんたち自身で何か企画することはないのですか。

⇒宗像には素晴らしい子育て支援団体さんもたくさんありますし、そういった団体の力もお借りして進めていければと思います。同じ年代のママたちに集まっていただいて、今、実行委員会の方でいろいろつめているのですが、やはりママたちにたくさんつながりを持ってい

ただけるように最善をつくしたいと考えています。

●子育て中の母親たちの悩みなどを解決させたいというのはよくわかります。ただ、1日のフェスタでこの目的を達成させることができますか。

⇒もちろんそう簡単にできるものではないと考えております。まずはそのきっかけとして、気づきを与えることができればと考えています。このイベントをきっかけに宗像の魅力がわかってくるのではないかと思います。おっしゃるとおり、一日で完全にできるというのは難しいと私たちも思っております。でもやらないよりやってみることが大事だと考えております。

●年間行事の中で、このフェスタだけじゃなくて、年間で2～3回取組みを行うのであれば成果が出ると思えます。

⇒ゆくゆくはそうなるべきだと思います。今は立ち上げ1年目というところと、予算も限られているところで、その中で何ができるかというところで、まずはきっかけづくりをやってみたいと思っています。その中で来場者にヒアリングを行い、どういった要望があるのかを把握し、必要とされているものを実行委員会で実現に向けて動いていきたいと思っています。フェスタ1回で全部片付くとは当然思いません。ただやらないといけない。せつかく行政とタイアップできるのであれば、年間を通して小さい所から積み上げてはいきたいのですが、まずはわかりやすい事業を1回やってみたいという風に考えています。

●メインとなるフェスタを3年過ぎた後も続けるのですか。

⇒当然補助金がなくなっても継続していきたいと思っています。そういった意味でもスポンサーを意識したステージ作りをやらないといけないというところがあります。あとは、やはり毎年ユリックスで開催されている子どもまつりが、子どもたちに定着して喜んでいただいているように、年に1回ですけれどもママたちに楽しみにしてもらい、ママが来て楽しかったということを盛り込んでいきたいと思っています。

●子どもまつりは1年に1回ですけれども、その1回に向けて子ども実行委員会なども開催し、開催までの積み重ねがあります。今年、初めてということですが、お母さんたちの意見を聞く場を準備する予定などはありますか。

⇒あります。当然実行委員会だけでやるというのは人数も限られていますので。サポーターなどを募集して、その中でいろんな意見を組み交わすことができればと思っています。

●ママフェスということですが、子育てや育児を頑張っているパパもいるので、パパも対象にした内容のものを取り入れてはどうですか。

⇒今回はママを対象にしていますが、貴重なご意見として受け止めさせていただき、パパたちにもくつろいでいただけるようなことも考えていきたいと思っています。

●会場を予定しているグローバルアリーナとは打合せはできていますか。

⇒はい、共催で実施することで話ができています。

●万が一、この予算が通らなくても実施されますか。

⇒はい、実施すると思えます。

6、ガールスカウト福岡県第28団 「親子でチャレンジ！心をはぐくむ体験型事業」 市関連部署；子ども育成課

団体から、提案内容について説明。

●募集は10組が限度ですか。

⇒10組としておりますが、35名まで参加できますので、組み合わせ次第では、15組ぐらいまで参加を受け付けます。八所宮の炊事スペースが35名ぐらいまで利用できるのこの人数になります。

●特に幼稚園ぐらいのお子さんのいる保護者から夏休みに親子で行く場所をずっと探しているという話をよく聞きますのでお聞きしました。

⇒調理関係のイベントは35名が限度になりますが、それ以外のイベントにはもっと多くの人が参加できると思います。

●予算書の支出の中で、ポロシャツが8万円計上されています。イベント当日に必ず必要であれば、5月と8月で同じ組数である必要がありますよね。

⇒このポロシャツは会員のみ配布します。当日参加される人には長袖を着用するように伝えています。ポロシャツを着ることで、一般参加の人があの子はガールスカウトの子であるということがわかりますし、厚手なので蚊は刺せません。私たちも長袖をきてこのポロシャツを着る状態になります。今回5月の時点でもう蚊が山のようにいましたので、これを先に購入しました。これを着ることによって一般参加者の方々も安心しますし、私たちも安全を守れるということです。

7、宗像アサギマダラの会 「アサギマダラ保護活動」 市関連部署；環境課

団体から、提案内容について説明。

●山田公園はコミセンで管理運営されているのですか。

⇒市の維持管理課が直接管理しています。

●市の直営の公園である山田公園にフジバカマ園を作り、将来的にはその他の地域にも広めていきたいということですが、そのフジバカマ園をどう管理していくのか、団体さんのお考えをお聞かせください。

⇒市の担当者からは、将来的には、アサギマダラの会にお願いできればという話をいただいています。

●備品でプリンター代として35,000円計上されていますが特別なプリンターになりますか。

⇒A3用紙がプリントできるプリンターです。観察会の時にパネルのようにして見ていただくので大きなものが必要になります。

●姫島視察を予定されていますが、目的などについて説明をお願いします。

⇒姫島では昔からアサギマダラの保護活動が行われ、観光にも活用されています。宗像の大島でも負けられないようにしたいのですが、そこまではいきついていません。だから山田公園にフジバカマ園を作って、人がくるような状況になれば大島の人たちもがんばってやろうという気になるのではないかと考えています。

●規約の第6条に会費について定められてますが、参加者する子どもたちはどうなりますか。

⇒会費については親にご負担いただければと考えています。

8、宗像カノコユリ研究会 「市の花カノコユリの普及推進事業」

市関連部署;環境課

団体から、提案内容について説明。

●今日配布されたパンフレットは昨年度の予算で作成されたものですか。

⇒はいそうです。

●パンフレットは全戸配布の予定ですか。

⇒全戸配布はパンフレットではなく、チラシです。配送業者さんに支払うお金が必要で、市の広報に合わせて入れていただくと、費用は55,000円必要になります。

●設備費で簡易テントと会議用の机を計上されていますが、その必要性について説明してください。

⇒今は、当会の会長の自宅で、観賞会などを行っていますが、毎回40～50名集まります。そこで会議机を並べてやっておりますが、今後、参加者が増えそうなのでテントと机の購入を予定しています。

～ 休 憩 ～

9、鐘崎の漁村文化を次代につなぐ会 「漁村と都市との交流促進事業」

市関連部署;水産振興課 商工観光課

団体から、提案内容について説明。

●子どもの漁村体験プログラムを都市圏在住の子どもたちに呼びかけてということですが、地元の子どもたちはこれにどう関わりますか。

⇒宗像、福岡、津屋崎も福岡都市圏ですので、これらの地域のお子様も当然対象にと考えています。鐘崎のお子さんは日ごろから漁村の文化に触れているという位置づけになるかと思っておりますので、なかなか海に触れる機会がない、魚に触れる機会がないお子さんを中心に考えておりますが、特段、間口を狭めてという考え方はございません。

●お尋ねしたのは、地元子どもたちが一緒に活動する事によって、大人が用意したメニュー以上のものを子どもたちが考えることもあるのではないかとというのがあったもので。
⇒そのあたりはちょっと、これまであまり気づかなかった視点ですので参考にさせていただきたいと思います。それでは、事前にご質問いただいていた項目について回答させていただきます。予算の収入について約30万ということで掲げておりますが、昨年度実績を考慮し、約30名の体験プログラムの参加者を想定しております。保護者が1万円×10名、お子様が5,000円×20名というので計20万、それと料理教室等で1人2000円の25人の2回で約10万と、だいたいそのくらいの見込みをしたうえでの数字でございます。それからイベントモニターについてのご質問をいただいておりますが、先ほどちょっと触れさせていただきましたが、いろんな体験交流のプログラムを開催した時に次にどのように開催したらいいかという事について、アンケート調査や聞き取りを行いまして、その情報をもとに次につなげていくという事でその条件込みで参加いただくという事で募集をかけさせていただいているという事でございます。それから、地元水産物を活用した加工品の開発について、開発過程で漁師ではない方々にアイデアを出していただくことがあるかというご質問をいただいておりますが、これについては、特段改めて費用を使つての委託というのは予定しておりませんが、いろいろなつながりの中で飲食店の関係者ですとかその他いろいろな方からご意見をいただいてそのアイデアを生かしていくという事はやっていこうと考えております。それから様式の方には記載させていただいておりますが、昨年までこちらの方は農水省の交付金事業で2年間続けておりまして、予算としてはかなりの規模のものをいただいて実施しておりました。それに今回のこの事業がどうつながっていくかという事なのですが、基本的に昨年までの取組といたしましては、加工品の開発ですとかコンサルタントへの委託費等が割合としてはかなりの金額を占めておりましたが、そこで得たノウハウをもとに、それを実践して最終的には参加者から費用を徴収するというかたちで持続的に行える体制もっていく。そういう検証をしていくという年にしたいと考えております。あらかじめご質問いただいていた分については以上でございます。

●去年も子ども漁村体験プログラムを実施され、参加者はそこですごく貴重な体験をされているわけですね。そういう体験の後に鐘崎と体験者のつながりをどのように活かしていく予定でしょうか。

⇒連絡先をいただいておりますので、今後もいろいろな活動についてのご案内をさせていただきたいと考えています。本年度の計画が定まりましたらご案内をさせていただくことになるかと思っております。感触としては次も参加したいという感想をいただいておりますが、我々の方が提供した体験プログラム以上のことを日常的に実施できるような体制ができていないという状況ですので、そういったところも今後の課題と考えております。

●5番目の地元水産物を活用した加工品の開発、いろいろ面白い商品を開発されているのだろうと思いますが、その先にある販売が大事だと思います。販売戦略などについてはどのようにお考えですか。

⇒ある程度の規模で、製品として販売できるという事になりますと、宗像漁協さんや地元の加工業者さんとの連携というものが必要になります。そのあたりはまだ具体的な話が詰め

られている状況ではございません。将来的には、売れそうなものができた段階でご相談していくという事は当然必要であると考えております。それから加工品を作って販売していても鐘崎の漁業者の収益を劇的に改善するような規模でやろうとすると、相当な設備投資ですとかいろいろなものが必要になりますので、そこは逆に目新しい加工品というものをひとつ地域の広告的な位置づけとして、そこに宗像、鐘崎、沖ノ島、世界遺産とかいうような名前、パッケージですとかそういうものを付けて、それによって知名度を高めて、ひいてはそのことが地元の水産物の価格の下支えとなるような、そういう様な戦略で進めるべきかなとは考えております。

●品物の開発は一流だけど、販売は二流だったりすることがよくあるので、販売の方にも力を入れて欲しいと思います。

⇒漁業者は、海のことに関してはプロでも販売は素人だったりするので、いろいろと知恵をいただきながら、頑張っていきたいと思っております。

●人まち補助金を活用して加工品を作るということは、ここに関わっていらっしゃるだけがこの加工品を作れるということではなくて、このノウハウはみなさんに示されて、どこでも作っていいというような事になったりするのですか。

⇒当然そういう事を視野に入れて取り組みたいと思っております。特にその材料の入手先ですとか、販売をしていくうえでの収益をどうするかたちで漁村全体に還元していくかということが、軌道に乗る段階において十分な検討が必要だと考えております。

●加工についてですが、漁協との連携はできていますか。

⇒今の段階で加工品の開発という事での具体的な連携はできていません。

●将来的にはどうですか。

⇒将来的には、連携を図って、いろいろと相談をさせていただこうとは思っていますが、一部のもので立ち上げたものをあとはよろしくというような形になってはいけないと思っておりますし、また、我々だけで握り込んで一部のものだけの利益になってしまうという事ではいけないと思います。そのあたりのバランスを含めてこれから考えていきたいと思っております。

●イベントモニターの参加にアンケートを含むということなのですが、これは前年度もいろいろやられていると思いますが、モニターの募集はすでにかけているのですか。

⇒個別のイベントごとに、SNSなどを用いてこれから募集していきます。

10、まつりのぼせもんたい 「まつりを支える芸人とスタッフ育成事業」

市関連部署 商工観光課、コミュニティ協働推進課

団体から、提案内容について説明。

●後継者の育成を具体的にどのように行っていく予定ですか。

⇒昨年度は6名ほど習いに来られました。今年は20名くらいに増やしたいと考えています。習いたいという人は多いのですが、運営をサポートするスタッフが少ないため、全員を受け入れることができていません。本年度はサポートスタッフの育成にも力を入れていきたいと

考えています。大道芸祭りの実行委員会に予算がついていますが、将来的には無くなるのではないかと考えております。そのためにも予算がつかなくてもやれるようにしていきたいと考えております。

●委託費で、ジャンパーとTシャツを30枚ずつ計上されていますが、どなたが着ることになりますか。

⇒将来的にスタッフが増えたときのことも考えて計上しています。

●今は30枚必要ないのですか。

⇒現時点では30枚は必要ありません。

●さっそく福社会の方から声がかかっていると言われましたけども、具体的にどこの敬老会に行くのかなど決まっていますか。

⇒今年度は、赤間地区と吉武地区を優先的に伺いしようと考えております。素人の芸人さんの発表の場ということをご理解いただいたうえで、こちらの方から逆にお願いしている状況です。

●確認ですが、正会員は何名いらっしゃいますか。

⇒今のところ3名です。

11、赤間にぎわしたい 「よみがえれ！唐津街道赤間宿の街並み再生応援事業」 市関連部署；コミュニティ協働推進課、商工観光課

団体から、提案内容について説明。

●のれんのサンプルが出ていますが、赤色の方を購入予定ですか。

⇒一応それで考えています。

●地域おこしには、他地域や他県の成功例などがいろいろあると思いますので、参考に見てはどうですか。

⇒はい。コミュニティの部会とにぎわしたいのメンバーで、来月、日田の豆田町に視察に行く予定です。

●駐車場の整備はどのようになっていますか。

⇒赤間宿通りの上と下には駐車場がありますが、もっと近くにあればいいのにというお客様の声が出ています。

●今年2月にあった赤間宿まつりでは、にぎわしたい関係で、25店舗出店されたということですが、出店された方で今年度も引き続き出店したいと言われている方はどれくらいいらっしゃいますか。それから購入予定であるのれんは、赤間宿まつりだけで使用予定ですか。

⇒また出店したいという意見はいくつかいただいておりますが、具体的に何店舗かまでは把握できていません。のれんの使用は赤間宿まつりでのみ使用予定です。

●のれんの購入ついて、申請団体の中でコミュニティの予算で購入してはという意見は出ませんでしたか。

⇒コミュニティがまちづくりのハードとソフトにどこまで関わっていけばいいのか、今後、

整理して考えていく必要があると考えております。のれんは、各出店者に貸し出すというかたちをとろうと考えています。

1 2、赤間サポート隊 「コミュニティサポート事業」

市関連部署；コミュニティ協働推進課

団体から、提案内容について説明。

- 今年2年目ということですが、3年目以降、どれくらい予算が必要になりそうですか。
⇒メンバーにお車代程度はお支払いをしたいと考えています。また作業時の昼食代などはコミュニティ運営協議会から出せればと考えています。
- Tシャツ、ジャンパーなどスタッフ用のものをそろえて、3年過ぎた後は赤間地区コミュニティのサポート隊になるということであれば、赤間地区コミュニティで予算計上すべきではないかと思いますが、いかがですか。
⇒はい。
- サポート隊の登録人数は今何人ですか。
⇒約70人程度です。主に赤間宿まつり、大道芸まつり、文化まつりの3イベントへの協力をお願いしています。
- サポート隊とコミュニティ運営協議会が協働で実施するかたちになりますか。
⇒将来的にはそうやって活動できることを目標にしていますが、現時点では、なかなかそこまではできていません。
- この事業について、赤間地区以外から視察の申込みなどはありますか。
⇒今のところ、問い合わせはほとんどありません。
- サポート隊に大学生は入っていますか。
⇒高校生が入っています。コミュニティ事業の中に子どもリーダー育成事業というのがあり、この事業の卒業生たちが去年から手伝ってくれています。大学生は一般ボランティアとして参加してくれています。

1 3、宗像まちづくりを楽しむ会「市民がつくる「市民交流まつり」～連携の輪を広げる～」

市関連部署；コミュニティ協働推進課

団体から、提案内容について説明。

- 交流まつりは、今年はやらずに交流会の方を優先しますということですが、昨年の交流会の中で、ポイントや問題点について、どういうものが出てきて、それに対し、どういうふうに行っているかとされているのですか。

⇒私たちの団体のメンバーの半分以上がコミュニティ運営協議会の部会などで活動しています。それで、コミュニティの活動をもっとやりやすくできないかというのが、もともとの私たちの活動の目的になっております。昨年、開催した交流まつりでは、募集前は30団体くらい集まったらいいかなというふうに考えていましたが、結果的に62団体の参加がありました。それからコミュニティ運営協議会からも28名の方が参加していただきました。4つの部会に分かれて車座を行いました。その中で、部会長さんたちからは、部会の悩みを打ち明けるところがなかなか無いというような意見が出ておりました。そういう面でもこういう意見交換ができる交流会が必要だと考えています。去年は出会いの場の提供ができたので、今年は各セクションごとに、例えば健康福祉部会であれば高齢者支援のノウハウをもった団体さんと交流をしていくというような場を作っていければと思います。

●申請書にコミュニティ運営協議会の課題として、活動のマンネリ化・情報不足・役員単年などという記載がありますが、活動のマンネリ化・情報不足というのはどういう意味ですか。
⇒これは、コミュニティの部会の方たちにアンケートを取らせていただいた際に記載のあった内容です。

●情報が入って来ないとはどういうことでしょうか。

⇒自分たちで情報を取りに行くところがないということだと思います。どこに聞きに行ったらいいかわからないということもあるかと思います。

●アンケートは全コミュニティに行われましたか。どこのコミュニティがマンネリ化しているのかなど説明をお願いします。

⇒アンケートは全コミュニティの部会長を対象に行いました。手元に結果が無いので、具体的にどこはお答えできませんが、マンネリ化という記載がいくつかありました。

●ケースバイケースということでマンネリ化していないコミュニティもあるということですね。

⇒そうです。課題としてあげられているところが、いくつかあったのでそれをどうにかして解決できたらというふうに考えています。

●では、どういうふうに解決していきたいと思われていますか。

⇒今のところは、市民活動団体さんを知る場を作りたいと思います。

●申請書にコミュニティという言葉があちこちに出ていますが、申請団体の会則にはコミュニティ運営協議会との連携などという言葉は書かれていませんが。

⇒そうですね、会則はあくまでも私たちの団体の中のものなので、ちょっとコミュニティとの連携などについては書いておりません。

●基調講演に関する経費が予算の半分以上を占めていますが、必要性についてどうお考えですか。

⇒必要性があると判断しました。毎年約60の自治体で職員や市民との合同研修を開催している実績があります。

●何人くらい市民を集めようと思っっていますか。

⇒コミュニティ関係者と一般市民で100名は集めたいと思っっています。

●基調講演、灯籠かざり、コンサートを予定するということは1日のスケジュールはおおむ

ね全部埋まりますね。

⇒午後から開催しようと考えていますが、宗像には地元の食材を使って活動している団体や灯籠関係の活動をやっている団体もあるのでご協力いただきたいと思います。

●市民活動団体とコミュニティとの意思の疎通がうまくできていないという課題があるのであれば、ある程度そういったところの解決に重点を置かないといけないのでは。

⇒申請書の中にも書いているかと思いますが、4月から6月までの間に3月の交流まつりの時に市民活動団体から提出いただいたコミュニティ運営協議会と連携できそうなことについてまとめ、それを各コミュニティの部会長、またはコミュニティの構成団体の目に触れるようなかたちで配布を致します。その後、6月から12月にかけて、健康福祉部会や青少年育成部会に関連する企画も実施していきます。

14、ふれあい自由塾の会 「ふれあい自遊塾事業」

市関連部署；コミュニティ協働推進課

団体から、提案内容について説明。

●予算の参加費のところ、3,000円と書いてありますが、子どもの参加が30人で、子どもから参加費を100円ずついただくということですか。

⇒はい、そうです。

●年間で13回イベントを予定されていますが、参加費をいただくのは、毎回ではないということですか。

⇒はい、毎回ではありません。参加費はそうめん流しなど、食材を使用する際にいただきます。ただ、お子さんだけでなく、保護者も参加すれば保護者からもいただくようにしています。

●実行は運営協議会中心ですか。それとも会のメンバーですか。

⇒事業の発足が、冒頭にも書いてますように、コミュニティ運営協議会の5ヶ年計画というところから出発していますので、協議会のサポートはありますが、徐々に自立して行っていくようになると思います。

●予算的なバックアップはあるのですか。

⇒若干はあります。本年度もあります。

●少しずつコミュニティのバックアップを軽減しながら、コミュニティとやっていくということですか。

⇒はい、そういうことになります。

15、田久有志の会 「自治会再生モデルづくり事業」

市関連部署；コミュニティ協働推進課

団体から、提案内容について説明。

●自治会や子供会への加入者がどれくらい増えましたか。

⇒自治会への加入者数などは自治会長さんが把握されていると思います。具体的に把握はできておりません。田久有志の会が自治会活性化のためにいろいろなことをやっているという事は知られてきていると思います。

●田久は子供会の会員だけで50人くらいおられると思いますが、Tシャツは30枚で大丈夫ですか。

⇒1人に1枚与えているわけではなく、イベントが終わったら返してもらうこともありますので大丈夫です。大人の分もそうなります。

●学生さんをうまく活用されているようですが、具体的にどのようにやり取りされていますか。

⇒九州女子大学、福岡教育大学などは学校が我々の活動を理解してくださっているようになってきています。活動を進める際に、学生さんの数は、あまり多すぎてもうまくいかないのですが、学生さんの方でうまく後輩に引き継いでくれているようです。また、学生さんたちが家族をもった時に、今、我々と一緒に行くこういう活動が将来に役に立つというようなことを伝えたりしています。

●必要とする数の学生さんが毎回集まっていますか。

⇒学生さんの都合で少ないときもありますが、だいたい集まっています。

●今年度の具体的な事業計画は基本的に前年と同様とそういう理解でよろしいでしょうか。

⇒はい。

～ 休 憩 ～

あ、九州女子大学人間生活学科

「島のイベントのあり方を島の方々とともに考える－企画段階からの参加を探る－」

市関連部署；商工観光課元気な島づくり係

団体から、提案内容について説明。

●七夕祭りなどで使う材料代などは、大島地区コミュニティから出ているのですか。

⇒我々も学校の実習費などの予算がありますので、試作用の材料代などは自分たちで支出しています。過去5年間では、あかもく入りのドーナツ、餃子、春巻きなどいろいろなものをイベントで販売しました。大島の方々もテント市をされていますが、なかなか売り子が少ないという事でお手伝いというかたちでの参加もしました。イベント当日までどういう物をどういう風に売っていくのかという打ち合わせを十分に行うことなく手伝いに入っていたので、学生もよく分からないまま動いたりしていました。今回の事業ではしっかりと考えなが

ら進めていきたいと思ひます。

●今まで販売にかかる収支はどのような状況でしたか。

⇒ほぼトントンで、利益は出ていませんでした。

●今回は企画段階から取り組まれるということで、非常にいい勉強になると思ひますが、大学の単位との関連などはどうなりますか。

⇒平成27年度からカリキュラムが改正されまして、1年生からこういう地域での活動に関する単位があります。1年生は資料の読みこみという事で授業を成り立たせています。2年生からは各活動チームに分かれて、例えば、畑チームとか合宿チームとかいろいろつくってですね、その中に宗像チームというのがありまして、その宗像チームの2年生の学生と3～4年生のうち今まで関わった学生たちが一体となって進めていきます。2年時から関われば、残り2年間あり、より長いスパンで関わっていただけるので、期待できるのかなと思ひます。

●予算書の需用費の6万円の使途について説明をお願いします。

⇒これは、島に新たな提案をする際には、試作品を作ったり、どうしても費用がかかってくる場合があります。そういったところで使う予定です。

い 宗像ライフセービングクラブ 「離島自然資源活用による交流活性化事業」

市関連部署;商工観光課元気な島づくり係

団体から、提案内容について説明。

●需用費の内訳について説明をお願いします。

⇒今回は交流キャンプの際にスカイランタンを100個飛ばそうと考えています。

●100個ですか。これは使い捨てですか。

⇒ゴミになってはいけないと思うので、ゴミにならないランタンでやってみようと考えています。多い方が絶対にインパクトがあると思うので、それを写真とかに残して発信していければと思ひます。

●スカイランタンは1個いくらぐらいしますか。

⇒5個で2000円～3000円くらいです。

●ランタン以外はどのようなものを購入予定ですか。

⇒機器と機器を繋ぐ装飾電球のようなものを4つ購入予定です。

●キャンプには大人も含めて何名くらい参加する予定ですか。

⇒島内のお子さんたちも含め、全部で60人くらいにはなると思ひます。

●島外からが多いですか。

⇒島外からが多いです。

●収入のところ、自己負担65,000円とありますが、誰が負担しますか。

⇒自分たちの団体で負担する予定です。

●メンバーは何名くらいですか。

⇒レギュラーメンバーは、15人から20人くらいです。キャンプの時のみ手伝ってくれるスタッフを含めると30人前後です。

●そのメンバーでお金を出し合うということですか。

⇒そうです。自己負担はそういうかたちになると思います。

●先ほどのスカイランタンの件ですが、ゴミにならないスカイランタンというのは、落ちた後に分解されて自然に戻るとかそういう類のものですか。

⇒詳しくはまだ確認できておりません。

●可燃物を飛ばすわけですよ。何か規制があるのではないかという気がするのですが、そのあたり何か検討してますでしょうか。

⇒まだ、検討できていません。

●今回の事業計画の中で「島内の交流活性化に寄与する人材の育成」ということが挙げられていますが、これは具体的にどういうことを考えられていますか。

◇人材の育成の件ですが、まずもってライフセービングクラブの方々が交流を図っていく中で、彼ら自身が人材として十分成長されていくと思うのですが、島内においても、島を活性化させたいと思っている方々もいらっしゃるものですから、そういう方々が交流キャンプ事業を通じて島の外、あるいは中を見回してですね、本物の交流はどういうことをしていけばいいのか、そういったことを考えていって、成長が図れればということも考えております。先ほどのスカイランタンの話については、私たちも、離島振興、島の交流活性化において非常に魅力あるイベントだと考えています。今、審査委員さんからお話がありました火の問題ですとか漁業関係者への影響とかそういったものについて、当然協議をしたうえで、島の方ともお話させていただいたうえで、実施していきたいと思えます。例えば課題がクリアできないような状況であれば市としてはこの事業を認めないということとし、認められる範囲でその事業を進めさせていただきますのでそのあたりはどうかご安心いただければと思います。

●ようするに、イベントをやりながら活性化に寄与する人材の育成を図っていくということですね。

◇キャンプにはボランティアスタッフを募集してしまして、そういった方々がボランティアでこのキャンプ事業のお手伝いをやります。そういう方々が活性化に寄与する人材に育つのではないかと、そういったことも期待しています。事前に研修会を行うことは、今のところは考えていません。

●島内の人向けにボランティアの募集はかけていますか。

◇ライフセービングクラブさんがこういう事業を島のために行ってくれているというのを島の方々も見えています。ですから、島内の人にも自分達も協力しなければという意識も芽生えていると思えますし、島の漁村留学の関係者などが実際にボランティアで動いてくださっています。

う 大島小学校 PTA 「おおしまワク・ドキ子ども活動支援」事業
市関連部署;商工観光課元気な島づくり係

団体から、提案内容について説明。

●運動会のダンスには保護者も参加されますか。

⇒このダンスは保護者が参加するダンスではありません。子どもたちが中心になります。

●風呂の賃借料はどこにお支払いするのですか。

⇒民宿2件に5,000円ずつお支払します。OT キャンプというのは大島小学校と東郷小学校の交流キャンプを意味しています。

●交流の受入れは1年ごとですか。

⇒1年ごとになります。去年は大島から東郷小学校に行かせていただきましたので、今年度は東郷小学校の子どもさんが大島の方にやってくると年になっております。

え 公益社団法人宗像青年会議所 「市民参加型ミュージカル「大島物語」」
市関連部署;商工観光課元気な島づくり係

団体から、提案内容について説明。

●世界遺産に来年決定する事になるかと思いますが、決定した場合に内容を変えることなどがありますか。

⇒世界遺産のために始めた事業ではありませんので特に変更はないです。

●予算について補足説明をお願いします。

⇒事前に島づくり係の方と協議したうえで、細かく記載しています。実際は一式で依頼しますが内訳を記しております。

●旅費5,000円の算出根拠について説明をお願いします。

⇒まだ正式に予約はしていませんが、旅館の宿泊費です。

●子どもたちだけで30人ですか。

⇒30人には、専門のスタッフも含まれています。

●宗像三女神記とこの大島物語の区分けはどのようになっていますか。

⇒募集内容が異なります。脚本なども別になります。

●両方出演する子どももいるのですか。

⇒両方出る子どももいます。ただし、練習などは別に行います。

●島内の子どもは何人いますか。

⇒これまでの実績でいくと1人か2人です。

●練習はこちらに来ないといけないですよ。

⇒基本的にはそうなります。ただ、毎回来てもらわなければならないので、こちらから出向いて脚本を渡してこれを覚えておいてというかたちでやり取りをし、公演日近くになったらこちらからターミナルに迎えに行きこちらに連れてきてあげたり、全体のリハーサルで1回ないし2回、大島に行きましてそこで交流したりします。

●この取組みは七夕祭りのときに披露しているものですか。

⇒それとは異なります。七夕祭りで行っているのはPRで、本番は七夕祭りの当日か翌日に小中学校の多目的ホールで約1時間行います。日にちは今後決めていきます。

お 宗像離島 PR クラブ 「映像技術を使った宗像離島PR事業」

市関連部署；商工観光課元気な島づくり係

団体から、提案内容について説明。

●昨年作成された冊子はどのような評価を得ていますか。

⇒知人にお渡ししたところ、ゴールデンウィーク期間中に家族で島に行きましたと報告をいただきました。実際に足を運ぶ人は限られているかもしれないですが、目を通していただいていると良い感想をいただいております。

●冊子に観光よりも自然が大事だというニュアンスの文章が入っていますが、このあたりの表現についてはどうお考えですか。

⇒賛否が分かれる冊子であると思いますが、観光地化してゴミ問題とか、景観がくずれたりするような状況が発生して、島が潤うのはどうなのかなというところを自分たちなりに考えました。観光客が島を訪れる前に、島の自然を考えることが大事ではないかと思ってこのような表現になっています。

●行政サイドはどう考えていますか。

◇制作物については事前に確認をさせていただいております。文章表現などについても相談をいただいております。観光地化に向けて逆行するような記載があることについては、市の補助事業に関する制作物としてはもう少し配慮が必要であったかもしれないというところがございます。ただ、一方で、自然環境などに留意しながら、世界遺産を考えようという一つの考え方の提示にはなったのかなというところはあります。

●どういうイベントをするのですか。

⇒参加者にカメラを1台ずつお渡しして、それで島のいろいろなスポットを撮影していただくと思っています。その後、参加者の皆さんと一緒に島外で島をPRする展示会だったり、あと撮影した写真の写真集のような冊子を制作できたらと考えています。

●スタッフは20人必要ですか。

⇒地島で獲れた野菜や魚を食べてもらうような企画も考えているので、一応20人ほど予定しています。

●このイベントは1日だけですか。

⇒そうですね。1日だけです。

●イベントに来られる方は、何時に来て何時に帰りますか。

⇒今考えているのは午前中に船で来ていただいて、島を見てもらってお昼を食べて、それからまた少し島を散策するというふうに考えています。

●費用の16万円は具体的に使う予定ですか。

⇒「写るんです」のカメラや写真集に使う予定です。

～ 休 憩 ～

2. 検討会

3 その他

●不採択となった団体が2次募集で再度チャレンジしてみようというようになるよう不採択となった理由などを事務局から丁寧に説明する必要があるのでは。

◇各団体に直接お会いし、丁寧に説明します。

●次回審議会は7月7日（木）10時から（2時間程度） メイトム宗像203会議室

協議事項 宗像市コミュニティ施策検証審議会答申（H23.8）事項の進捗管理について

= 散 会 =